

鬼小十郎まつり



片倉軍vs真田軍決戦 大坂夏の陣～道明寺の戦い～

片倉小十郎を愛する者たちが、全国各地から片倉の聖地「白石城」へ集結！
会場に足を踏み入れた瞬間 そこは、まさに「異空間」
会場の盛り上がりには後押しされるように、出演者は熱き魂で応える
まつりは、片倉の軍旗・黒釣り鐘のように、時空を超え「しろいし」の名を全国にとどろかせた—



埼玉県新座市在住の井村まきさんは、友人の湯本真砂子さん(仙台市)とともに、白石城復旧に向けた活動を展開。実行委員会に直談判してブースを設け、売上金の全額を白石城復旧のために寄付することを目的にシリコンリストバンドを製作・販売。用意した200個が完売した。

オーディションを勝ち抜いた専門学校デジタルアーツ仙台の学生が、小十郎や幸村、阿梅などのメインキャストを担当。幸村が小十郎に娘・阿梅を託すシーンなどは、合戦シーンとはひと味違う雰囲気観客を戦の場に引き込んだ。

キューブ新体操教室の生徒は「真田忍者隊」として華麗な演技を披露。白石高等学校弓道部は「片倉弓隊」として観客を魅了。仙南広域消防本部レスキュー隊が演じた「真田忍者隊」は白石城天守閣3階櫓から登場。いずれも普段の活動とは違うが自慢の特技を生かして協力した。



合戦の火ぶたを切った「片倉鉄砲隊」。「ズドン！」という火縄銃の音が城内に響いた。

甲冑工房「片倉塾」は手作り甲冑の無料試着コーナーを設置。ソニー白石セミコンダクタ株の無料写真撮影コーナーとともににぎわった。また、片倉塾は、白石城復旧のため寿丸屋敷と白石城で募金活動を実施。寄付金はこの日だけで23万円を超えた。



東北・関東から4武将隊が集結！ 東日本武将隊サミットin白石城

4武将隊による演武やトークは観客を笑顔にさせた。そして、まつり最後の「勝ちどき」は震災からの復興を願いながら行われ、会場が一体となった。



声優・森川智之さんが鬼小十郎まつりに参戦！
「奥州片倉組演武口上」をプレゼント＆イベントで募った寄付金を白石城へ



奥州片倉組に11人目のメンバー
真田十勇士が一人
真田忍者隊 猿飛佐助 参上

森川さんの登場に会場は一気にヒートアップ。森川さんから奥州片倉組の伊達政宗に演武口上のゴールドディスクが手渡された。演武口上は、今後の奥州片倉組の登場シーンなどで流される。さらに、奥州片倉組11人目のメンバー猿飛佐助が登場！ 昨年まで「道明寺の戦い」の佐助を演じていた彼が、今年からは奥州片倉組の佐助として宙返りなどを披露。新たな武器を手に入れた奥州片倉組のますますの活躍が期待される。

4年目の成熟。小十郎ファンを虜にするまつりへ成長

10月1日、「第四回鬼小十郎まつり」が白石城芝生広場で開催された。まつりのために遠くは北海道や九州からも来白。昨年来上回る約8,000人を一歴史絵巻にのびやかなった。「白石市消防団伝統獅子乗り復活10周年記念式典」で始まった今年のまつり(階子乗りは28ページに掲載)。仙台市の「奥州・仙台おもてなし集団・伊達武将隊」や山形県の「山形おきたま【愛】の武将隊」、埼玉県行田市の「忍城おもてなし甲冑隊」、そして「白石戦國武将隊・奥州片倉組」の4武将隊が集結した「東日本武将隊サミットin白石城」が行われたほか、さまざまなイベントが開催された。

まつりのメインイベント「片倉軍vs真田軍決戦 大坂夏の陣(道明寺の戦い)」は、全国各地から参加したエキストラ約70人が甲冑を身にまとい登場。二代目片倉小十郎重長を「鬼小十郎」として天下にとどろかせた大坂夏の陣を再現した。

4年目を迎えた今年。さらに磨きがかかった内容に、小十郎ファンならずとも楽しめるまつりとして成長した。まるで震災からの復興を後押しするかのよう

まの枠を超えて
まつりを創り上げる

このまつりが全国のファンを虜にした要因は何だろうか。スタートは戦国武将ブームの波。そこに、まつり以前から活躍しているキューブ新体操教室や片倉鉄砲隊、白石高校弓道部などの市内の団体と、全国からの参加者が新しいまつりを創り上げようと協力。「白石の力」と「まの枠を超えた力」が融合し、相乗効果を得た。

今年にはさらに、『戦国BASARA A』で片倉小十郎の声を演じる森川智之さんも来白。奥州片倉組演武口上をプレゼントするなどまつりに花を添えた。

かつて敵対した片倉家と真田家は、戦を通じてつながった。それは、小十郎と幸村という2人の武将がいたからこそ生まれた絆であり、まつりと同じ。人と人がつながるからこそまつりが生まれ、まつりが成長するのだ。鬼小十郎まつりは4回目を迎え、人と人をつなぐまつりに成長した。

まさに、まつりは「まちづくりの原点」のように感じた。